



2026 年 10 月 1 日

各 位

会 社 名 ス テ ラ フ ァ ー マ 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 上 原 幸 樹
(コード番号：4888 グロース)
問 合 せ 先 I R ・ 広 報 部 長 浪 花 勝 史
(TEL 06-4707-1516)

深部がんに対する ^{18}F -FBPAの取り込み能に関する 研究者主導臨床研究の実施契約締結について

ステラファーマ株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：上原 幸樹）は、学校法人藤田学園、住友重機械工業株式会社、Atransen Technologies株式会社及び株式会社マイクロンとの間で、研究者主導臨床研究「深部がんに対する ^{18}F -FBPA^{*1}の取り込み能に関する探索研究」（以下「本研究」といいます。）の実施に関する契約を締結しましたので、お知らせいたします。

当社は、2026年8月10日付「藤田医科大学との連携による深部がん領域へのBNCT^{*2}適応拡大に向けた研究開発の進捗について」において、深部がん領域へのBNCT展開を目的とした研究開発プロジェクト及びその一環として実施される本研究についてお知らせしております。

今回の契約締結は、本研究の実施に向けた具体的な取り組みとなります。

記

1. これまでの経緯

当社は、BNCT のさらなる発展と適応拡大を目指し、藤田医科大学をはじめとする研究機関及び企業との連携のもと、深部がん領域を対象とした研究開発を推進しております。

2024 年 12 月には、当社、藤田医科大学、Atransen Pharma 株式会社、住友重機械工業株式会社及び株式会社フジタとの間で、深部がんを対象とした BNCT 研究開発の推進を目的とする覚書を締結しました。本プロジェクトでは、参画する各組織が保有する薬剤開発、医療機器開発、放射線治療、建設技術及び臨床研究に関する知見を結集し、従来の BNCT が抱える深達度の課題解決を目指すとともに、将来的な深部がんへの適応可能性について検討を進めています。その取り組みの一つとして、藤田医科大学病院において、本研究が実施されます。

2. 本研究について

本研究は、深部がんに対する ^{18}F -FBPA の取り込み能を探索することを目的とした研究者主導の特定臨床研究です。

本研究では、 ^{18}F -FBPA PET を用いて深部がんにおける BNCT 用ホウ素薬剤の腫瘍集積性を評価し、将来的な BNCT 適応拡大の可能性を検討します。

^{18}F -FBPA PET は、BNCT の施術におけるステボロニン®の分布状況を可視化し、治療前に BNCT

の効果を予測することも可能と考えられている PET 診断技術であり、本研究を通じて、深部がんにおけるホウ素薬剤の挙動及び腫瘍集積性に関する知見の蓄積を図ります。

3. 当社の成長戦略における位置づけ

当社は、既承認領域における BNCT 治療の普及促進、新規がん種への適応拡大、BNCT と免疫療法を組み合わせた新たな治療コンセプトの開発、深部がん領域への展開及び海外展開の推進を、中長期的な成長戦略として推進しております。

本研究は、このうち「深部がん領域への展開」に向けた研究開発の一環と位置付けており、本研究で得られる知見は、将来的な BNCT 適応拡大に向けた基盤データになるものと期待しております。

4. 本研究における当社の役割

当社は、本研究に使用する ^{18}F -FBPA の合成に必要な原料（プレカーサー）及び標品を提供します。また、これらについて、適用法令等及び本契約に従い、適切な品質管理を行います。契約書上、当社によるプレカーサー及び標品の提供と、それらに関する品質管理が定められています。

当社は、BNCT 用ホウ素薬剤「ステボロニン[®]」の研究開発及び製造で培った知見を活用し、本研究への参画を通じて、深部がん領域への BNCT 展開の可能性を追求してまいります。

5. 今後の見通し

本契約の締結による当社の 2027 年 3 月期の業績への影響は軽微と見込んでおります。

当社は、藤田医科大学等との連携のもと、深部がん領域への BNCT 展開に向けた研究開発を推進してまいります。

今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

< 語句説明 >

※1 ^{18}F -FBPA

がんの画面診断技術である PET 診断において、現在使用されている ^{18}F -FDG に代わる新たな PET 薬剤として ^{18}F -FBPA の開発を行っています。 ^{18}F -FBPA は BNCT の施術において、ステボロニン[®]の分布状況を可視化し、治療前に BNCT の効果を予測することも可能と考えられており、BNCT の発展に貢献するものと期待されています。

※2 BNCT

BNCT (Boron Neutron Capture Therapy : ホウ素中性子捕捉療法) とは、放射線治療の一種であり、新しいがんの治療法です。ホウ素の安定同位体である B-10 (天然ホウ素に約 20% 含まれる) の原子核はエネルギーの低い低速の中性子 (熱中性子) をよく吸収し、直ちにヘリウム原子核 (^4He 核 (α 粒子)) とリチウム原子核 (^7Li 核) に分裂します。これら原子核は細胞を破壊する能力が非常に大きい一方で、影響を及ぼす範囲が 4 ~ 9 ミクロン (μm) と極めて短いことが特徴です。また、熱中性子自体の細胞破壊能力は小さいため、B-10 を含む物質が、がん細胞に選択的に集積し、そこに熱中性子が照射されると、そのがん細胞

は選択的に破壊されます。

この原理に基づいて考案された医療技術です。ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）とは放射線治療の一種であり、ホウ素を含む医薬品と放射線の一種である中性子照射を組み合わせ、体へのダメージが小さく、高い治療効果が期待されます。